軽量素材好調で3割増

丸井織物 10年12月期 売上高、さらに上振れ

丸井織物（石川県中能登町）の2010年12月期の売上高が、約53億円となり前期比で約3割伸びた。ダウンジャケットなどに使われる薄地の軽量素材が国内外の有名ブランドに採用され、数字を押し上げた。直近ピークとなる08年12月期の水準を超え、今期（11年12月期）はさらに上振れする見通し。

宮本徹社長が北國新聞社の取材に応じた。

国内外のスポーツ、アウトドアブランドから軽量素材の引き合いが伸び、特に韓国と欧州向けが倍増した。

同社によると、ファッション業界では薄地の軽量素材が世界的に流行しているが、技術レベルの問題から中国など新興国では生産が難しく、北陸産地に受注が集中しているという。

今期はさらに拡販を進め、売上高は57億円を見込む。宮本社長は「回復が鮮明になった年だった。より細い糸を使うなど改良を加えたい」と話した。

「マルイテックス」自社ブランド創設

丸井織物は、自社ブランド「マルイテックス」を創設した。自ら製品を企画し、販売する機会が増えていることから、自社製品の「目印」となるロゴマークを作り、差別化を図る。

宮本社長は「従来は下請けの委託加工が中心だったが、自主販売の比率が高まってきた。機能性と快適性を備えた素材のシンボルとして浸透させたい」としている。